
放課後の未来

緒田 玲夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

放課後の未来

【コード】

N0086D

【作者名】

緒田 玲夜

【あらすじ】

ずっと好きだった彼に告白を決意した主人公。主人公の気持ちは？

(前書き)

— つ言っておきます。
物凄く下手ですから。はい。

って大声で言っちゃったりとか。

酷い事だと思えます。そのおかげでその人を好きだった友達に絶好されちゃったりもして。

私って………。

「ふう……。来ないなあ、癒馬君……。」

時間が経つごとに緊張しちゃっているっていうのに。

私が癒馬君の事を好きになっただきっかけは、

昔からいじめられっこだった私が、クラスの男子に筆箱をとられて困っていた時に、凄く高くジャンプをして筆箱をとってくれた事。

あれから私は頑張って話しかけて、ついに癒馬君がこの前私の事を『親友』だと言ってくれた。

そして告白したら少しぐらいチャンスはあるんじゃないかと考え、今に至る。

そんな事を考えていると、

《カサ……》

草が擦れ合う音が、背後で聞こえた。

驚きながらも振り向くと、優しく笑う癒馬君がいた。

私は緊張して、考えていた事が吹っ飛んでしまったので2分ぐらいは黙りこくっていた。

そして思い出す事が出来ないまま、このままではいけないと思って頭に浮かんだ言葉を癒馬君に伝えた。きっとその時の私の顔は真っ赤だっただろう。

「癒馬君、その、えっと、あの、ビックリするかもしれないんだけど……」

ずっと好きだったの。もし、もしね、癒馬君が私と同じ気持ちだったら、付き合って欲しいの。それだけ。」

こう伝えた後、私は恥ずかしくて堪たまらなかつたから、その場から全速力で逃げた。

あの時の私がもし癒馬君の目に悪いように映っていたとしても、それが私なのだから、良いと思う。

次の日、今度は癒馬君から呼び出しをうけた。

不安な気持ちいっぱいでそこに向かったけれど、どんな返事だろうと後悔はしないだろう。

きつと納得出来る答えが見つかるから。

(後書き)

恋愛ものはやっぱり苦手。

下手糞ですがあたたかい目で見てください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0086d/>

放課後の未来

2011年1月3日19時24分発行